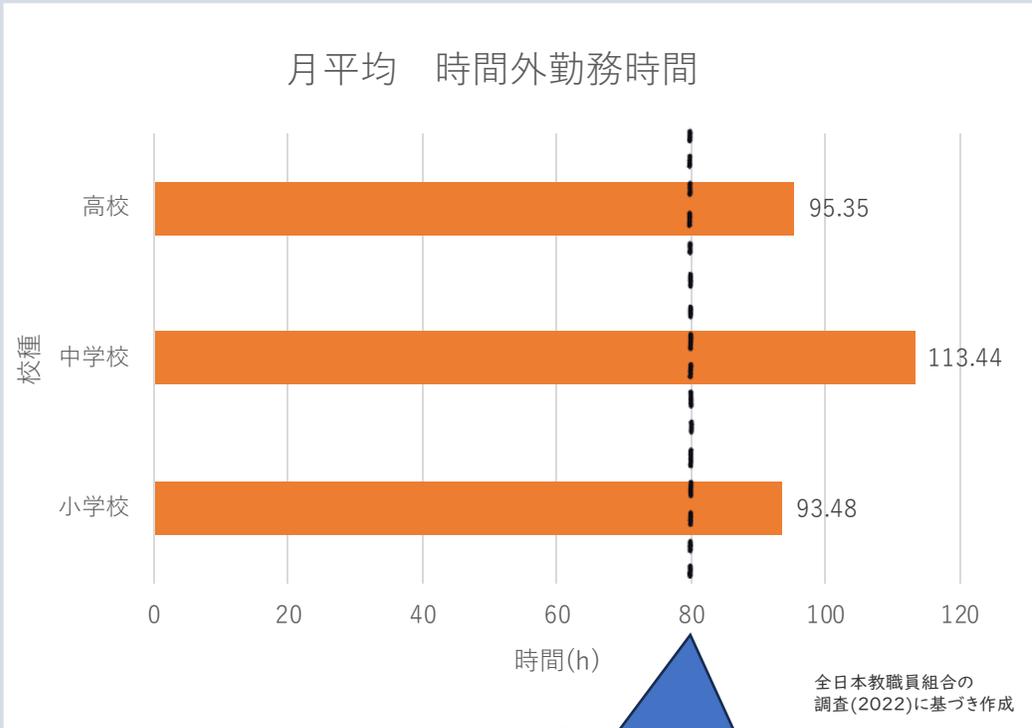


残業!疲労組!限界先生!



先生の大変さ、知っていますか？

実際の先生からは↓



過労死ライン
(病気や死亡のリスク大)

- 月の残業上限は45時間。
- 外部人材を2倍に増やしても残業時間は減らず。

出典: 東京新聞 「教員の時間外勤務は月平均96時間、過労死ラインを超える 中学は113時間全日本教職員組合の調査」
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/238354> (2023年8月29日 閲覧)
東京新聞 月間123時間…残業が減らない小・中学校教員 外部人材を倍増したのに「業務削減が不十分」の声
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/207080> (2023年10月20日 閲覧)



K先生

給与面や労働時間に満足できない部分はあるが、教員の仕事にやりがいは感じる。むしろやりがいだけで乗り切っていると言っても過言ではない。

体調がすぐれない時に休んでしまうと業務が増える…。多少の体調不良なら無理をしてでも出勤する。



S先生

といった声も…。

出典: あしたメディア 「月間残業時間96時間の背景とは?日本の未来のための教員の働き方改革」
<https://ashita.biglobe.co.jp/entry/2022/11/07/110000> (2023年10月30日 閲覧)

先生を手伝い隊

- 毎日の授業準備、保護者・生徒への対応、次々と現れる新しい学習への対応…。
- 新たな人材が多く入って来ず、薄給でも長時間労働を強いられる。
- 働き方改革が謳われる今も時間外勤務は続いている！



私たちが手伝えることで
先生たちの負担を減らせないか！

活動内容

何の手伝いなのか。



募集人数

何人募集するの。

募集内容

具体的な内容を書く。

内容例)

いつ手伝いに行けばいいの。

例) 昼休み、13:00に〇〇教室に集合。

どのようなことをするのか。

例) 授業で使う教材を運んで欲しい。

手伝い隊出動要請書(例)

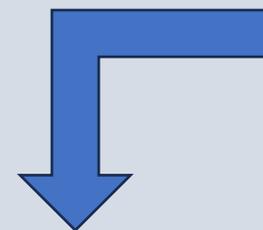
①どんなことを要請するのか書く。

②タブレット等で知らせる。

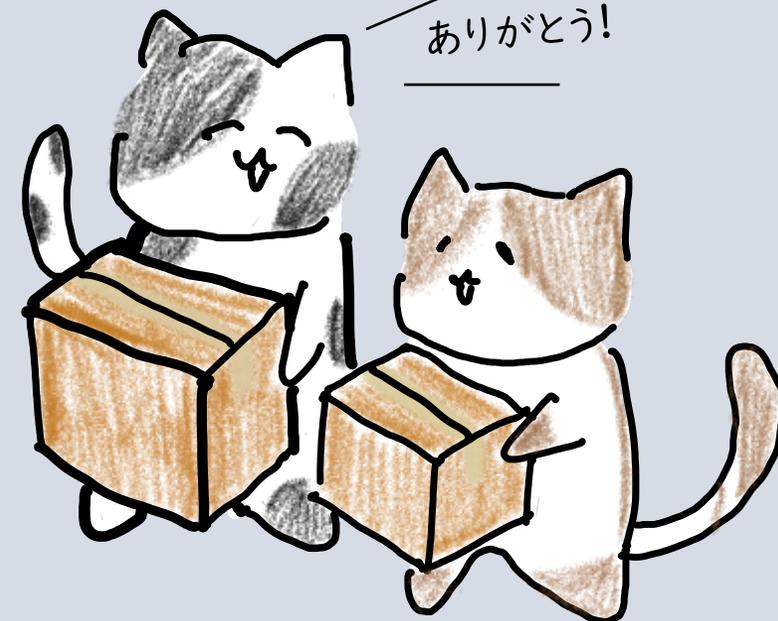
③要請書の内容に従って生徒が手伝う。

例えば

授業に使うものを運びたいから手伝って!



実際に手伝う





誰にでも簡単に
参加できる!

たくさんやる人と
そうでない人が
固定化されそう…。



手伝い隊出動功績 

 4/26				

☆組 ○○

出動功績をつける!

- 出動した日付を残す。
- 全て埋まったら
先生たちからご褒美が!?
→ご褒美の内容は先生が決める。
例)お菓子をプレゼント。
掃除を一回休み。
など。

手伝い隊の参加を通して先生の
大変さに気づく。
→生徒自身が今までやってきた
こと、気付いたことを工夫する!

先生の余裕が、学校全体・生徒
の余裕につながる!

